

## 「父である神はただひとり」エペソ4：4-6（「一致の基礎」その7）

堀田修一 20・1・12

I この御言葉は、4節からの御言葉を完成するもの。また、2、3節の「御霊の一致を熱心に保ちなさい」の御言葉の頂点。そうする理由が7つあげられている。3つの部分に分けられる。最初の3つは、御聖霊が中心（からだは一つ、御霊は一つ、召しのもたらした望みは一つ）、2番目の3つは御子が中心（主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ）。頂点は本日の御言葉。「すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのもののうちにおられる、すべてのものの父である神は一つです」。私達の救いに関連するあらゆる事が、一致の為である事が明らかにされている。神聖な三位一体の教理ほど、この点を明確にさせるものはない。三位一体のそれぞれの位格である方が、私達と私達の救いに関与されている。それぞれが、救いの御業に、固有な関わり方をされている（父なる神は、救いの計画者。子なる神、キリストは、救いの実行者、成就者。聖霊なる神は、成就されたその救いを私達の心に伝え届ける方）。しかもそれぞれが共に働かれる。聖書は、初めからすぐに、私達自身の問題について考えさせる事をしない。むしろ、救いの恵みに心を向けさせる。私達の問題を解く鍵がここにある。クリスチャン生活の諸問題の原因は、私達が自分自身の事だけを見つめ過ぎる事にある。三位一体の主と救いの素晴らしさを見つめる事により、私達の心は恵みを受け癒される。三位一体の神の第三位格の神、御聖霊が、親しく实际的に、私達と私達の救いに関与されている事に目が開かれるなら、私達の状況全体は全く違ったものになる。聖書は、時間が創造される以前に、父、子、聖霊なる神の永遠のご計画において、私達の救いは計画されていた。時間が満ちて、それが実行に移された。教会の一員として、私達は聖霊と御子と父なる神との関係の中に置かれていると聖書は教える。この関係が、教会の一致を必然的に生み出す。また、この事が、一致を保つ唯一の方法。

II 「すべてのものの父である神は一つです」を見つめたい。教会が「神の教会」である事を忘れないようにしたい。「〇〇牧師の教会」ではなく、聖書では「神の教会」と言われている→使徒20：28、Iコリント1：2、10：32、11：22、15：9、IIコリント1：1、ガラテヤ1：13、Iテモテ3：5。これは、一致の原則を理解するのに役に立つ。聖書は「神は唯一である」と語る。「私たちは、世の偶像の神は実際にはないものであること、また、唯一の神以外には神は存在しないことを知っています…私たちは、父なる唯一の神がおられるだけで、すべてのものはこの神から出ており、私たちもこの神のために存在しているのです」Iコリント8：4、6。唯一の神がおられるという根拠からこの方を信じる私達には、本質的な一致がある。聖書は、ただ一人の神がおられると教えるだけではなく、「神は唯一」と教える。三位一体の神の偉大な奥義。神が三人おられるのではない。ただ一つの「三位格にして、神聖な三位一体の神」がおられる。神は一体であり、その神には三つの位格（人格）がある。これは、神が三人おられることではない。三神主義ではなく、一体の方。御霊も御子も御父も私達のうちにて下さる。この事が、教会の一体性を強め、強調する。三つの方が一つであるように、神を礼拝し、神のものである私達も、一つである必要がある。三位一体の教理を受け入れ平和の絆で結ばれて御霊の一致を熱心に保ちたい。

Ⅲ 神の臨在を深く覚える事が一致を創造する。同じ神のもとに行くのなら、分裂はなくなる。すべては一つであり、同じ方を礼拝している。「すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものうちにおられる、すべてのものの父なる神は一つです」の「すべて」は、キリスト者すべてを指している。御霊により、私達が神に愛されている神の大切な子供と理解するなら、私達の全思考と全生活は一新される。私達は「神のご性質にあずかる者」となった。Ⅱペテロ1：4。神から出る命の源を与えられている。私達は、同じ父を持つ神の家族！神が私達の父であり、神が、いつも、私達の事を本当に愛してやまない大切な子供としてご覧になり、守り、真に必要なものを与え、支えて下さる事実を本気で信じるなら、私達は悩みの中でも大いに励まされる！「すべてのものの上にあり」=父なる神は、偉大で、すべての事、幸いな一致の創造者。すべてを支配する方。「時がついに満ちて…いっさいのものがキリストにあって…一つに集められる」エペソ1：10。これが父なる神の御計画。人間の罪により分裂、分離させられてきたものを再統一し、再び一つに集められるお方。一致の創造者。「すべてを貫く」=父なる神は、すべてを貫いて働いておられる、すべてのもの（試練も）のうちにおいて「力ある方」。これは神の摂理を示し、すべてを支配しておられる。父なる神が、私達の人生と教会の命のすみずみまで生き巡っておられ、支えておられる。神の御力こそ、教会を誕生させ、教会を存続させ、最後の完成まで保たれる。

※励まし：

1. 「雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしに地に落ちることはありません」マタイ 10：29。  
私達の身に起こる出来事で、偶然は何一つない。神の支配、ご計画、意味、御目的がある。「意味なく危ない目に会わない。あなたの出入りには、御神の守りがある」聖歌507。

2. 「神がすべてのことを働かせて益としてくださる」ローマ8：28

人の目にマイナスに見える事も、神を信頼して行くなら、神の時に益（私達の成長、最善、神の御業の前進）として下さる。

①神は、私達が経験する事をすべてご覧になり、心に留めておられる。創世記 39 章のヨセフの身に危険や問題が迫る度に、5 回「しかし、主はヨセフとともにおられた」とある。すべてが悪い方向に向かっている時でさえ、主は、私達と共におられる。

②神は、事の成り行きを究極的にコントロール、支配しておられる。神は、私達のすべての過ちと、他の人々が私達に対して犯したすべての罪を取り扱われ、悔い改めに導かれ、それらを好転させ、すべてを益（最善）へと変えて下さる。私達が弱くても、偉大な父なる神は、霊的戦いに勝利して下さる。最悪な状況さえ、神は私たちの為に、良きものへと変える事がお出来になる。人生が「もう駄目だ」と思われる時も、最終決定権を握っておられるのは父なる神。私達の直面している混乱状態に、解決を与えて下さるのは神。神は事の成り行きを見ておられます。神は、私達の身に起こるマイナスに見える出来事さえも良いものに変えて下さる。神に委ねるとは、どんな状況の時でも、神に信頼する事。ヨセフは「あなたがたは私に悪を謀りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとしてくださいました」（創世記50：20）と語りました。神が、すべてを益にして下さるのは、たとえ状況を理解できなくても、私達が、人生をあきらめず、神を愛し神に信頼して歩むからです。